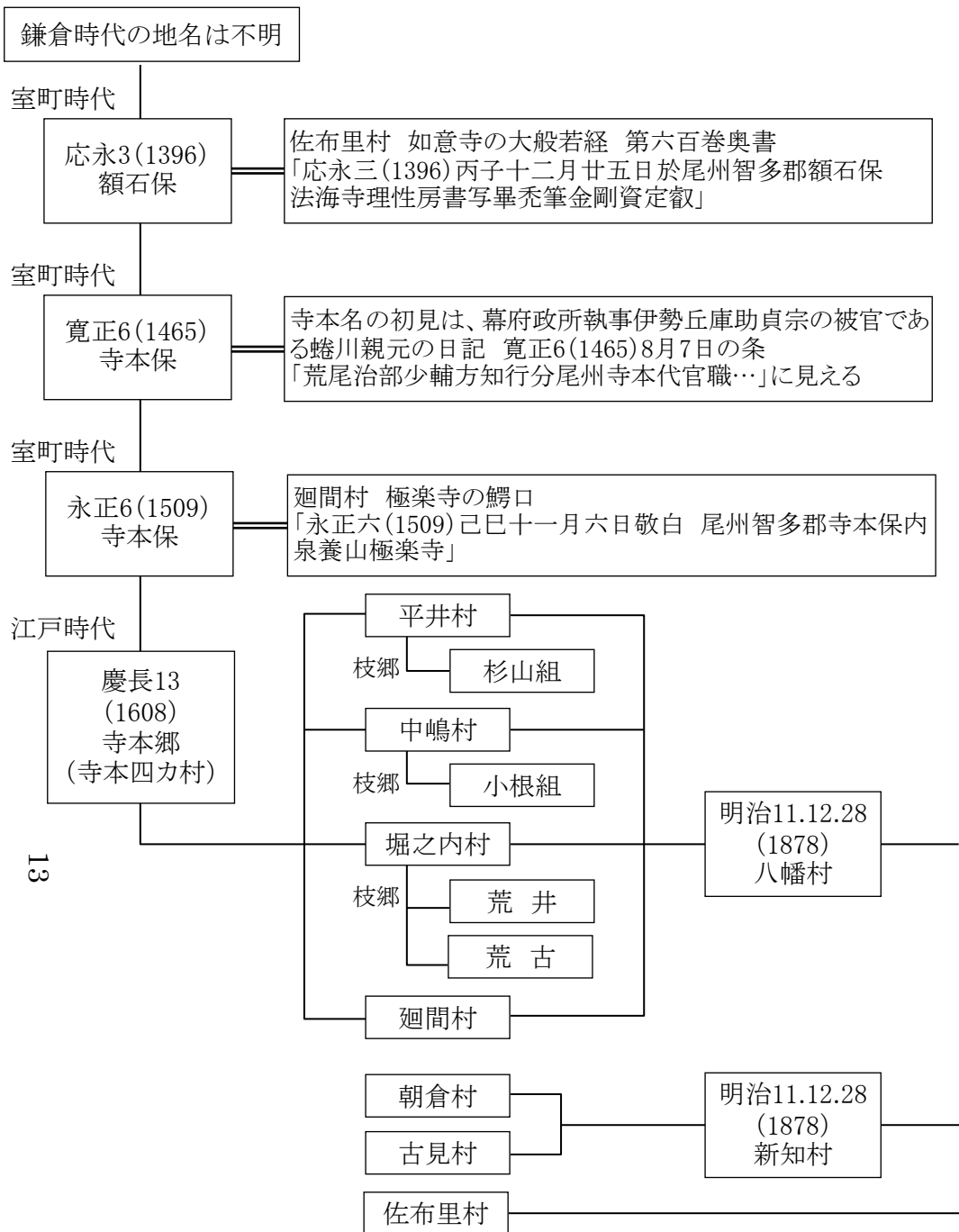


2. 6 八 幡 地 区 の 系 譜



番賀郷(はがのこう)

この郷名の初見は、平城京出土木簡に「尾張國智多郡番賀郷花井里丸部龍麻呂」(表)「調塩三斗 神亀4(727)年 10月7日」(裏)とあり、奈良時代に確認できる。番賀郷の位置については「大日本地名辞書」では、現東海市南部から知多市北部にかけての帯としている。ちなみに、知多市八幡付近から東海市の海岸に沿って、古代の製塩遺跡が集中して存在している。

額石保

室町時代になり、薬王山法海寺の位置を額石保と呼んでいた。額石保という地名がのちの寺本四力村の全域を指していたのか、法海寺付近の一区画のみを指していたのかは分からないが、「保」というのは民家の集った一区画(村)を指しており、醍醐寺文書に見られる国衙領(こくがりょう)である。

